主日礼拝　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2014年２月２日

**説教題「キリストの体と血による新しい契約」**

新約聖書　ルカによる福音書第２２章１－２３節

過越の小羊をほふるべき除酵祭の日が近づく中で

祭司長たちや律法学者たちは、どうかしてイエスを殺そうと計画する。

十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれていたユダに、サタンがはいる。

ユダは彼らと協議し、金を与える取決めを承諾し、引き渡す機会をねらっていた。

過越の食事の当日

主イエスは過越の食事の準備を指示される。水がめを持っている男の家について行け。

席の整えられた二階の広間に過ぎ越しの食事の用意をした弟子たち。

**新しい過ぎ越しの食事の制定　聖餐を制定される主イエス・キリスト**

切に望まれていた過越の食事　神の国で過越が成就する時までは二度としない食事

パンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、

「これは、あなたがたのために与える**わたしのからだ**である。

わたしを記念するため、このように行いなさい」。

食事ののち、杯も同じ様にして言われた、

「この杯は、あなたがたのために流す**わたしの血**で立てられる**新しい契約**である。

裏切りの予告

わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。

人の子は定められたとおりに、去って行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわいである。

弟子たちは、自分たちのうちだれが、そんな事をしようとしているのだろうと、互に論じはじめた。

描かれた最後の晩餐の絵画から分かること。

主の赦しと憐れみの食卓に招かれている恵みがここにある。

ディボーションノート　５　　2014年２月３日―2月８日

|  |
| --- |
| ２月３日(月)　詩篇１０５篇  　旧約聖書の中にある最大の救出ドラマは、出エジプトの奇跡です。神は真実なお方で、アブラハムと約束し、その子イサクと約束された契約を一貫して守られました。主イエス・キリストの十字架と聖餐はその成就です。ヨセフが奴隷としてエジプトに売られ、そこで大臣にまでなり、祖国の飢饉の時に一族をエジプトに導き助けます。その後、エジプトで増えて行ったイスラエルの民は、厳しい苦役の中で神に救いを求めます。モーセが立てられて民全部を導きだすのが出エジプトです。28節からは出国を許さなかったエジプトの王ファラオに対し繰り返えされた神の裁きが記されています。こうした力強い御手により「民を導いて喜びつつ出て行かせ、その選ばれた民を導いて歌いつつ出て行かせられた」のです（43節）。救い出してくださる真実な神は今も生きておられます。 |
| ２月４日(火)　詩篇１０６篇  　救い出されたのは、イスラエルの民が立派だったからではありません。むしろ彼らは、  「くすしきみわざに心を留めず、いつくしみの豊かなのを思わず、紅海で、いと高き神にそむいた。」（７節）のです。救い主なる神を忘れ、罪を重ねた民。この姿はわたしたちの姿でもあります。救われた感謝を忘れ、神に背いた生き方をしやすいのです。神が怒りを加えられるとき、モーセは「破れ口で主のみ前に立ち」滅びを免れさせました。しかし、そのモーセも神を怒らせる過ちを犯します。岩に命じて水を出せと言われたのに、その言葉に従わず、岩を二度打って水を出したからです。神に従う者は、神を礼拝し、軽率な罪を犯さないように注意しなければなりません。44節以下は、「それにもかかわらず」神はいつくしみ深く、憐れみ深いと賛美します。わたしたちが賛美すべきは、神の徹底的ないつくしみ、憐れみです。それによって、今日あるを得ているのです。 |
| ２月５日(水)　詩篇１０７篇  　ここから詩篇の大きなまとまりの最後の第５巻です。107篇以降、新聖歌の交読文にも13の詩篇が収録されています（第34番から46番）。この第５巻は神への賛美に徹した歌ばかりです。冒頭の「主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。」は暗記して、わたしたちの賛美としましょう。この一句は118篇や136篇でも繰り返されます。いつか礼拝の挨拶でしてみたい一句です。107篇で繰りかえされる言葉は「彼らはその悩みのうちに主に呼ばわったので、主は彼らをその悩みから救い」です。そして「どうか、彼らが主の慈しみと、くすしき御業とのために、主に感謝するように」と続きます。苦しいときの神頼み、と言われますが、わたしたちは困ったときに真剣に神を呼ぼうとしません。神を呼ぶ前に、諦めたり、自業自得だと自分を裁いたりするからです。悩みのうちに神を呼ぶべきです。神を呼びながら力を尽くすべきです。その苦しみの谷を通過しつつ、確かに神は、今ここで働いて下さっていると感謝し、神を賛美しながら進めるのです。 |
| ２月６日(木)　詩篇１０８篇  　いつ読んでも心打たれ、励まされます。「神よ、わが心は定まりました。わが心は定まりました。わたしは歌い、かつほめたたえます。」（57篇７節にもある）。信仰が与える力とは、心を定めてくれる力です。神に信頼し、確信を持って前進して行ける恵みです。坂戸キリスト教会の60年間は、多少動揺しても、最後は一致し前向きに心定めて歩んできた60年でした。先立って道を拓いてくださった先輩方に改めて感謝します。何よりも感謝することは、神の慈しみは天にまで及び、神の真実は雲にまで及んでいることです。後半は詩篇60篇の6－１２節を引用しています。周辺の国々を支配しつつ、なお仇敵エドムとの戦いに向かう場面でしょうか。「われらは神によって勇ましく働きます。」神に信頼して全力を尽くす。その姿勢を告白しています。 |
| ２月７日(金)　詩篇１０９篇  　前半は呪いの復讐を長々と歌います。この人がどんな批判や疑惑の罠に落とされたのかは分かりません。これほどまでに徹底した復讐を祈り求める姿は、わたしたちには異様に感じます。この通りのことを、敵対する人から実際に、すでにされたのかも知れません。後半21節からは、そのようなひどい仕打ちにあって、困窮するどん底からの叫びでしょうか。わたしたちが直面することは、白黒がはっきりしていません。責任がどちらにあるのか、原因がどちらにあるのか、すぐには分からないのです。声の大きいほうが正しいとは限りませんし、人々の賛成するほうが正しいとは限りません。ただはっきりしていることは、主なる神は正しく裁くことができることです。主は弱く貧しい者の右に立ってくださり、正しい弁護者として、死罪にさだめられようとする者を救ってくださいます。 |
| ２月８日(土)　詩篇１１０篇  「引照付き聖書」をお持ちの方は、この110篇の次の言葉が新約聖書のどこに収録されているか注意してください。「足し台」「右に座す」「み心を変える」「メルキゼデクの位」「怒りの日」。第２篇とともに、「メシアの詩篇」と呼ばれています。信仰問答に、「主イエス・キリストは今どこにおられますか。」と問いかける問答があります。復活されて天に昇られて主イエス・キリストは、父なる神の右に座しておられます。「右」とはすべての権威を父なる神から委託されている位置です。そして教会はキリストの体ですから、地上においては教会としておられます。教会は建物ではなく、集う人々の全体を指しますし、世界の教会は、唯一の使徒的な「聖なる公同の教会」であると使徒信条で告白します。教会のかしらである主イエス・キリストが天におられるのですから、教会の肢体であるわたしたちが地上の生を終えて天に帰るのは当然です。すでに天に座席を持っているのです（エペソ２：６）。また主イエス・キリストの霊である聖霊は、父なる神から遣わされて、いま教会の一人ひとりに与えられ、日々、命の霊として注がれています。聖霊は神です。神はご自由な方で、まだ信仰を告白していない人にも自由に働きかけられます。 |